「大阪のみどり・地球温暖化に対する適応行動」に関するアンケート　リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

　大阪府では、「みどりの大阪推進計画」を策定し、「みどりの風を感じる大都市　オンリー1」の実現に向け取り組んでいる。本計画に定めた各指標の進捗状況を把握し、持続可能な環境保全活動の実現につながる施策検討の資料とする。

　環境対策に関連して、世界的な課題となっている地球温暖化対策では、温室効果ガスの排出を削減する「緩和」とともに、現在あるいは今後現れる気候変動の影響への「適応」が重要となっている。大阪府では、今年度より「温暖化『適応』推進事業」を実施し、府民をはじめ、環境NPOや市町村職員等の「適応」に関する理解を深めるための様々な取組みを推進していくにあたり、地域ごとの啓発活動の内容を検討するため、本調査を活用する。併せて、平成28年度より実施しているクールスポットモデル拠点推進事業において、平成30年度の公募条件を検討するための参考資料とする。

1. 調査（検証）項目【大阪のみどり】

計画指標

・大阪府域（全体）にみどりがあると感じる府民の割合

・大阪府域の都市部（市街地）にみどりがあると感じる府民の割合

・最近みどりに触れた府民の割合

1. 調査仮説【地球温暖化に対する適応行動】
	1. 仮説１　暑さにより体調を崩したことのある人の方が、適応策にあたる行動を取っており、またその中でも、程度の重い経験をした人ほど、適応策にあたる行動を取っている
	2. 仮説２　暑さにより体調を崩した経験の有無や体調を崩した場所により、クールスポットの設置を求める場所が異なる
	3. 仮説3　居住地域や年代、世帯構成により、クールスポットの設置を求める場所が異なる
2. 調査対象

国勢調査結果（平成27年）に基づいた、性・年代・居住地（４地域）の割合で割り付けた、18歳以上の大阪府民1,000サンプル

1. 質問項目

予備質問　4問

ＳＣ1　性別（ＳＡ）

ＳＣ2　年齢（Ｎ）

ＳＣ3　都道府県（ＳＡ）

ＳＣ4　市町村（ＳＡ）

本質問　21問

【大阪のみどり】

Ｑ1　みどりの感じ方（大阪府域）（ＳＡ）

Ｑ2　みどりの感じ方（市街地）（ＳＡ）

Ｑ3　みどりへのふれあい（表組）

Ｑ4　2～3年前との変化（ＳＡ）

Ｑ5　みどりを感じるシーン（ＭＡ）

Ｑ6　都市部へ行く頻度（ＳＡ）

【地球温暖化に対する適応行動】

Ｑ7　（同居家族含め）暑さにより体調を崩した経験、及びその症状の程度（ＳＡ）

Ｑ8　【Ｑ7ある】体調を崩した人の当時の年齢（ＳＡ）

Ｑ9　【Ｑ7ある】暑さにより体調を崩した時期（ＳＡ）

Ｑ10【Ｑ7ある】暑さにより体調を崩した時間帯（ＳＡ）

Ｑ11【Ｑ7ある】暑さにより体調を崩した場所（ＳＡ）

Ｑ12【Ｑ7ある】暑さにより体調を崩したシーン（ＳＡ）

Ｑ13　「適応策」の認知度（ＳＡ）

Ｑ14　屋内にいるときに、暑さを和らげるために実施していること（ＭＡ）

Ｑ15　屋外にいるときに、暑さを和らげるために実施していること（ＭＡ）

Ｑ16　クールスポット利用経験（ＳＡ）

Ｑ17　クールスポットを設置して欲しいところ（表組）

Ｑ18　昨年度の夏季エアコン28℃設定の実施状況（ＳＡ）

Ｑ19　昨年度の冬季エアコン20℃設定の実施状況（ＳＡ）

Ｑ20　世帯構成（家族構成）（ＳＡ）

Ｑ21　【Ｑ20単身世帯以外】世帯構成（子ども、高齢者の有無）（ＭＡ）

6.　検証方法

仮説1　暑さにより体調を崩した経験・重症度（Ｑ7）別に、適応策実施状況（Ｑ14、15個数）

仮説2　暑さにより体調を崩した経験（Ｑ7）別に、クールスポット設置希望場所（Ｑ17）を集計

　　　　暑さにより体調を崩した場所（Ｑ11）別に、クールスポット設置希望場所（Ｑ17）を集

　　　　計

仮説3　居住地域（ＳＣ4）、年代（ＳＣ2）別に、クールスポット設置希望場所（Ｑ17）を集計

　　　　世帯構成（Ｑ20、21）別に、クールスポット設置希望場所（Ｑ17）を集計

　　　　　⇒　・子どもがいる世帯といない世帯を比較

　　　　　　　・高齢者がいる世帯といない世帯を比較